

奇想天外な人、東秩父村で発見

福島 利治さん（御堂）



※福島さん：上段、ドラム

私

はモスクワ大学に留学後、当時の東邦物産で営業として輸入業務に従事し、ヘッドハンティングされ豊田通商へ。そこでは、ロシアやカザフスタンの企業と自動車販売・サービス合併会社設立、ロシア国内トヨタディーラー店設立、チェコのプラハで日本料理店「NAG OYA」設立事業を担当するなど、現役時代は世界を駆け巡りました。退職後は東秩父村に帰郷し、趣味の楽器演奏、スポーツ観戦、野菜作り、語学学習、麻雀等をする日々です。

楽器演奏は主に東秩父響きの森奏友会でドラムを担当しており、ビートルズやベンチャーズの影響で16歳から始めたので60年続けています。教員でピアノが弾ける父と同じく教員で音楽の先生だった母の元で、幼い頃からクラシック音楽に触れて育ちました。その中で私がドラムに魅力を感じたのは、曲のテンポやリズム、進行がドラムによって展開されるところです。世界には、クラシック、ラテン、ポップス、ロック、民謡など様々な音楽がありますが、そのリズムをメトロノームのように調整し、ジャンルの違う音楽に対応するのがドラムの役割なので、テンポやリズムを決めて先行するところにやりがいを感じます。

一期一会

〜 東秩父村国際親善大使 〜

私は本村の歴史、文化、産業等を国内外に発信し、発展のためのPR活動をする東秩父村国際親善大使として、令和元年10月からボランティアで活動しています。細川紙の手漉和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録され、外国人用の観光パンフレットを石井照雄さんと作成した際に、当時の足立村長に声をかけていただき国際親善大使に。豊田通商時代にロシアやカザフスタンで事業をしていたご縁で、現在も都内の研修会などに招待されることが多く、ロビー活動を実施したり座談会で本村を紹介しています。昨年10月と今年7月には自身の講演会も実施しました。一期一会という言葉があるように、人と人との繋がりがやりがい、ボケ防止にもなります。継続は力なりです。

